

授戒会について (5)

広厳寺では開山四百回忌を迎えるにあたり、昭和三十八年以来、五十年ぶりに、報恩のお授戒会を修行いたします。

「授戒会」(じゅかいえ)は正しいみ仏の教えを聞き、心で信じ、身体で行じて身も心も清らかなり、生きながら仏様にさせていただく曹洞宗最高の法要儀式です。参加者の皆様には五日間お寺に通っていただき、礼拝、聞法、坐禅、食事など修行の実践を重ね、「戒」授かります。

大授戒会

平成二十五年

五月二十七日～三十一日

(五日間)

戒 金 五万円

因脈授与 一万円

亡戒血脈 五千円

* 募集百五十名

* 平成二十四年春に各家にご案内通知いたします。

授戒会(じゅかいえ)

曹洞宗の両大本山、福井の永平寺をお開きになられた道元禅師さま、横浜の總持寺をお開きになられた瑩山禅師さまは、「お釈迦さまのみ教えは、本来、私たちに備わっている。この仏心(仏性)に目覚めこれを育てて美しい花を咲かせることだ」と教えられています。

広厳寺では再来年(平成二十五年)、この仏心(仏性)に目覚めるための儀式、すなわち「授戒会」を五十年ぶりに修行いたします。これは、お釈迦さまのみ教え(戒法)を正しく受け止め(授戒)、仏教徒としての正しい信仰をもち、潤いのある日常生活を送っていたり、又とない出逢いとなります。

お釈迦さまがご在世の時、お弟子たちに戒法を授けられてより、インド・中国を経て、日本へと歴代のお祖師さま方によって受け継がれ、今日に伝えられたこの戒法を、戒師さまのお導きにより、親しくお受けし、仏教徒としての自覚を持つてゆく修行の場が「授戒会」であります。

「授戒会」は曹洞宗の信仰の生命(いのち)であり、命脈であります。達磨さまは、「受とは伝なり、伝とは覚なり、即ち仏心を覚るを真の授戒となづく」と示されています。

戒を受けるということは、お釈迦さまのお弟子となり、真の仏教徒としての自覚を持ち、仏心の花を開くことでもあります。戒師さまのお導きにより、戒法の心を自覚したその証しとして「血脈」を受け、戒名を授かります。聞法と礼拝を通して、必ずや法のお徳が皆様の身と心を満たすことと確信いたします。

今日の社会状況において、とりわけ人としての倫理・道徳感が強く問われています。今こそ、私たちは、お釈迦さまのみ教えを我が身、我が心に受け止め、授戒に基づく信仰と誓願・実践による家庭づくり、社会づくりをしなければなりません。

一人でも多くの人々が、仏心(仏性)に目覚めるための「授戒会」にご縁を結ばれますよう、切にお勧めいたします。

写経(般若心経)を始めませんか!

期日 毎月第2日曜日(1月2月はお休み、8月は第1日曜日)

時間 午後1時～随時(午後4時終了)

参加予約不要 イス席 筆ペンも可

参加費 納経料300円

* 筆、硯、墨等の準備はありますが、使い慣れたものを持参していただいても結構です。

* 写経台紙(手本) 写経用紙はこちらでご用意いたします。

* 時間内のいつでも写経できます。(1時間位)

9/11(日) 10/9(日) 11/13(日) 12/11(日)



写経会 毎月(1月2月を除く)第2日曜 時間午後1時～随時(16時終了)都合付く時間にできます。